

大成ロテック 西田 義則 社長



持続可能な経営へ施策

2018年は「市況は20年に迫った夏季東京五輪や大阪万博の開催決定によって堅調であった一方、コンプライアンス(法令順守)問題によって受注期間が限られ、その中で激しい受注競争を繰り広げることになり、厳しい状況となった」と振り返る。

ほかに、原油精製技術が高度化してアスファルトを製造する優先順位が下がったことに加え、一昨年からの原油価格の高騰が重なり、アスファルトの価格が高騰しているため利益確保が難しいと指摘する。

前の中期経営計画から継続して目指す持続的成長・収益力の向上については「働き方改革、生産性革命、新規事業への挑戦、安全・品質の確保、大成建設グループでの連携強化など、やるべきことが多岐にわたる」とし

事業の具体例としては、トンネルの壁面の延命や、視認性の向上のため、コンクリートにガラス状のものを塗布する「ワンダースターティングシステム」や、12月に初弾が進み始めた中小規模の水力発電などを挙げた。

18年4月に建築部を設置して建築分野を強化しているが「大成建設やほかのグループ会社とのすみ分けはできている」。大

その後、現地企業との合弁会社を目指す。成長著しいベトナムには環境問題があり、日本のアスファルトがら・コンクリートがらをリサイクルする技術などを提供して、環境面で貢献することができると力を込める。

働き方改革について「人員を増やすことを優先しつつ省人化・省力化の設備投資も進めている」「給料・休暇・希望の持てる現場をつくっていくとした。

つつ、「それぞれで打った施策が相乗効果を発揮して進められている」とした。

成ロテックとしては、地域に密着し、倉庫・事務所・工場の建築から外構の整備までの一括受注を強みにリース会社などの注文を担っている。

具体的には「工場はリニューアルによりICTを導入、遠隔操作を可能にし省力化を進めている。工事も、ICTや工事支援アプリの導入、iConstructionの推進、プレキャスト工法の提案などで効率化している」と語った。状況に

例として「グループでの連携強化で人事交流の人数を増やしている。これが既にある事業での連携のほかに、新規事業にも役に立っていく」と語る。新規

海外事業については、「19年の4月をめどに、ベトナムのハノイに現地法人を設立したい。

厳しい要素もあるが、一つひとつの課題に施策を立て、持続的成長を目指している。